

文化通心



「茶室とは厩^{うまや}に名馬をつなぎたるごとし」

『晴松亭』『美藻庵』を建てた木下棟梁はそう話してくれた。

茶室はあくまで、それを使う人の思い、その心遣いを生かす
ものであるという。

この器の中で、どれだけの出会いがあり、もてなしの心が
重なるのであろうか。

百年、二百年経った時、その息吹を吸ったこの建物は、
どのような年の重ね方をして、

どんな風情をかもし出しているのであろうか。

誰も見ることのできない百年後に想いを馳せる。

中條財団の茶室は今、満2歳を迎えたばかりである。

写真撮影／藤井照芳

22

1999年6月1日(季刊)

●発行所：

財団法人 中條文化振興財団

〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号

TEL.(087) 826-3355 FAX.(087) 826-2212

“茶の湯”に触れていただきたい。

流派を問わず、より広く、より多くの方達にー。そんな思いの

「晴松亭」「美藻庵」二年目の足跡

実技講座

茶事

茶懐石料理講座



講師は茶懐石専門の京都「三友居」山本先生。
季節ごとの本格的な懐石料理に受講者の皆さん、
毎回新たな発見と歓声。

茶の湯は「茶事にあり」と言われる。茶の湯は決して、堅苦しく形式ばつた古前(てまえ)や作法の稽古ごとを言のではない。

茶事の原点は日常生活の立ち居振舞、そして心遣いにある。茶室という、非日常的な空間の中で催されるパフォーマンス。そこには人の心の優しさが、思いやりが、そして美しさが息づく。日頃の慌ただしい生活からふと離れて、茶室に入り、懐石料理を味わい、道具を鑑賞し、一服の茶を飲む。静寂という音が聞こえてくるような時間と空間。「茶事」にこそ、真の茶の湯の姿があると言われる。当財団も次の茶事を主催した。

◎夕ざりの茶事

平成十年九月十八日

◎夜咲の茶事

平成十年十一月七日・八日

席主 武者小路千家官休庵

◎正午の茶事

平成十年十一月九日

席主 武者小路千家官休庵

高橋初乃先生ご指導の和菓子作りは、笑い声の絶えない楽しい講座。できあがったお菓子と一緒に飲むお茶の味はまた、ひとしお。

和菓子講座

茶杓には作った人の人格が一番出るとか。皆さん無心に。講師は茶道石洲流宗家十職の三原宥竹斎先生。

茶杓削り講座



高橋初乃先生ご指導の和菓子作りは、笑い声の絶えない楽しい講座。できあがったお菓子と一緒に飲むお茶の味はまた、ひとしお。

○正午の茶事
平成十年十一月九日
席主 武者小路千家官休庵

○夜咲の茶事
平成十年十一月七日・八日
席主 武者小路千家官休庵

◎夕ざりの茶事

平成十年九月十八日

席主 楽茶俱楽部

月釜カレンダー

流派を問わず、それぞれの席主の趣向を楽しんでいただく財団主催の月釜は、どなたでも入れます。ただし、定員が決まりますので必ず、事前にご予約を。

六月



席主 安部流家元教授
高橋初乃先生
一服・吸茶席と点心席
安部流お家元が同席
くださりお客様を迎
えくださいました。
吸茶の味はまた格別。

十一月



席主 官比庵 三宅守眞宗匠
守眞会
濃茶席・薄茶席・点心席
三宅宗匠の道具、お
菓子等の取り合わせ
の妙にお客様は感嘆
の声。

三月



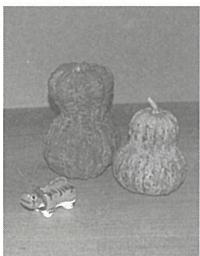
席主 中條財団茶の湯委員
濃茶席・薄茶席・点心席
「花だより」のテーマ
にふさわしく、桜の花びらが浮かぶ大
盆の美酒に、季節ごと舌鼓。

七月



席主 未知草会高校教室
主宰 永井百合子先生
展観席・濃茶席・薄茶席
和更紗、金襴緞子の
仕覆に包まれた茶道
具。季節、趣向にあ
わせたひも結びの展
観席は大好評。

十二月



席主 よびつぎ会
薄茶席・点心席
流派を超えた先生方
の会。慌ただしい師
走に一服の心のやす
らぎを。琵琶床(び
わどこ)には、お別
れが近い干支の寅の
置物が。

四月



席主 江戸千家
行弘宗春先生
中村宗敬先生
濃茶席・薄茶席・点心席
財団主催の月釜に初め
て釜をかけてくださいま
した。新緑のかすかな葉
ずの音に、身が清めら
れる思いの中、茶室にむ
かいました。

十月



席主 一茶庵 佃一輝宗匠
一服・煎・濃茶席・
玉露席・点心酒亭席
自由な語らいと美
しさを求める一茶庵佃
宗匠のお席に、他流
派のお客様にも大層
ご満足いただけま
した。

二月



席主 石洲流香川県支部
石原宗恵先生
三癸亭賣茶流
石原惠泉先生
一服席・煎席・点心席
若い社中の皆さんのがんばりがさわやか
でした。おみやげの
手造りクツキーもう
れしい心遣い。

五月



席主 裏千家流
川西宗岩先生
茶席・点心席
八十歳・九十歳のお
客様も。一碗をすす
ることを中心に年を
重ねてござられた、そ
の立居振舞、問答、そ
れはみごとでした。

貸し茶室では、こんな方、こんな形でもご利用頂きました

若い人達にも

官休庵官翠会佐々木博子先生社中の
学生の皆さんによる初釜。お客様も若
い華やいだおもてなしに、心うれしい
新年です。



国際交流にも



高松市の姉妹都市セントピータース
バーグの市長ご夫妻達に、日本の文化
を紹介したいと、高松市国際交流課の方達と。素朴な、しかも核心をついた
質問が、次から次へと飛び出しました。



裏千家淡交会高松支部学校茶道。
今回は可愛い中学生の生徒さん達が
おもてなしを。将来のお茶人さん、
成長が楽しみです。



“茶の湯は本来男性のものであった。”
まさにその言葉を思わせられる点前。
お客様もほほえめ。
香川大学表千家茶道部月金。

Q&A

中條財団の茶室利用について、よく頂くご質問についてお答えします。

- Q 道具は貸し出しますか?**
- A 基本的に稽古道具は貸し出しができる
よう、用意していますが有料となります。**

- Q 使用料はいくらですか?**
- A 全室を一日(朝九時～夕方五時)お借り頂いて三万円です。部分貸しもいたします。たとえば小間を午前中(朝九時～正午)お借り頂くと四千三百円です。決して高い料金ではないと思いますが、いろんな形でご利用頂ければと思います。なお冷暖房ご使用の場合は別途料金頂戴いたします。**

- Q 詳しいことは、財団事務局までお問い合わせください。**
- A 電話 (087) 826-3355**

- Q 茶室の間どりはどのようになっていますか。**
- A 四畳半台目席の小間「美藻庵」と和室六畳と八畳の広間「晴松亭」と、あと立札席となっています。台所、水屋も併設されています。**

- Q 申し込みはどのようにすればいいのですか?**
- A 茶事については随時お申し込みを受けています。その他の茶の湯関係の行事は、使用日の六ヶ月前から受付けます。使用許可は全て受付け順とします。直接ご来館のうえ、所定の使用許可申請書に記入のうえ手続きをしてください。受付け時間は朝九時から午後五時までです。ただし毎週水曜日は休館日ですのでご了承下さい。**

- Q いろんな催物があるようですが、どうすればその情報を得られますか?**
- A 中條財団には「晴友会」という友の会があります。友の会の方には、財団主催の催物は随時ご案内いたしております。**

- Q 友の会の年会費は三千円です。茶の湯をしている、いないにかかわらずどなたでも随時入会受付けております。また、事務局にお電話を頂けましたら、その時に決定している催物をお知らせいたします。**

- Q 申し込みはどのようにすればいいのですか?**
- A 茶事については随時お申し込みを受けています。その他の茶の湯関係の行事は、使用日の六ヶ月前から受付けます。使用許可は全て受付け順とします。直接ご来館のうえ、所定の使用許可申請書に記入のうえ手続きをしてください。受付け時間は朝九時から午後五時までです。ただし毎週水曜日は休館日ですのでご了承下さい。**

讃岐平野が豊饒の秋を思わせる季節になると、毎年、中條文化振興財団の茶室

「晴松亭」で財団賞の贈呈式が行われます。自然界の実りとそこに暮らす人々の豊かさが重なったような式典は、晴れやかな受賞者に拍手を送る推薦者や応援者たちがうちとけて、厳粛な雰囲気の中に温かなものをじませてきました。

地方文化の振興と向上発展を念願した財団の創始者・中條晴夫氏は常々、光が当たらずとも一生懸命に努力をする人達のお役に立ちたいものと言外にもうされていました。県内各市町村の教育委員会等から推薦を受けた人の中から選考し、理事会で決定する財団賞はこの精神に沿ふさわしい事業になつて注目を浴びています。

これまでの受賞者はみなさん謙虚な人達ばかりで、お礼の言葉も「私のようなものが、はからずも受賞の対象となりました。

受賞者の中には喜びを記念碑建立という形にした方もおられ、その後のご活躍ぶりを見聞きするにつけて、理解や賛同が励みになり、顕彰はこの上ない喜びであり、次なる活動の原動力になるらしいことが今更にしてよくわかりました。

これまで「中條の財団賞」と親しまれてきたものの真価や責務を再認識して、これからも、文化を楽しむ人たちが次代のために活躍されることに、少しでもお役に立つことを願つていきたいと思っています。



過去、財団賞受賞者最高齢の前原 勇さん（85才）
(H.8年度 第4回財団賞贈呈式)

財団賞の六年間を振り返って

選考規定
①県内在住者及び本県出身者。地域文化の振興に貢献した個人及び団体で十五年以上の活動歴を持つこと。

②県下各市町の教育委員会及び市町の文化協会等からの推薦を必要とする。

③毎年二名（団体）以内

④財団賞と奨励金二十万円

⑤申請書類締切日 平成十一年七月三十一日

⑥申請先

（財）中條文化振興財団

高松市番町二丁目一一一二
☎(087)826-3355

財団賞候補者（団体）募集中

平成十一年度

過去の財団賞受賞者（団体）

平成五年度	筒井 元	三木町文化協会設立以来22年間その発展に寄与した。
	藤本 延一	幼・小・中・高・一般の同好会等ハーモニカ指導で香川の音楽水準を高めた。
平成六年度	吉岡 正智	農村歌舞伎・太棹三味線等伝統芸能の後継者育成のために努力している。
	白鳥町 虎頭舞保存会	さぬきの郷土芸能の一つとして保存及び後継者育成のために努力している。
平成七年度	かな書道 若竹会	展覧会・講習会を開催し常に自己研鑽に努め幅広く書作活動をしている。
	津田町無形文化財 精靈踊保存会	歴史と伝統に育まれたこの文化遺産を後世に伝承しようと努力している。
平成八年度	直島女文楽	香川県無形民俗文化財・同有形民俗文化財に指定され後継者育成にも努力している。
	前原 勇	70余年をかけて歴史民俗文化財を収集し私費で菟古館を開館し社会奉仕に努めている。
平成九年度	久保 隆則	郷土の先人の歴史や文化財を再認識し伝承することで地域の活性化に尽力している。
	お大師山の火祭	大川町無形文化財であり、人情味豊かで素朴な祭りとして後世に伝承しようと努力している。
平成十年度	長尾町塚原神社 あばれみこし保存会	長尾町無形民族文化財に指定され保存・育成に努め、地域文化の振興に貢献している。

想錄

リレーエッセイ⑦



あや だ 綾 田 整 治

1906年(明治39年)3月10日生。
30年百十四銀行入行。52年から75年まで頭取、その後会長・名誉会長を経て、現在相談役。
その他の、高松商工会議所会長、香川県公安局委員会委員長などを歴任。藍綬褒章、勲三等旭日中綬章、香川県名譽市民、長尾町名誉市民。

（松支店）だけが焼失を免れたのは、中條さんが準備していた防火用水槽のお陰である。

造建物（倉庫・行員食堂・宿直室など）に使用（も）焼失（やせつ）して（いた）。この時やつと「助か（た）」と実感（じつかん）した。

中條財団月釜・行事予定
(六月～八月分)

中條さんの功績

中條さんは昭和四・五年に前後して百十四銀行に入行以来、ずっと一緒にいた。一緒にいた時間は家内とのそれよりもずっと長かったが、この間二人の中で事を構えるということは遂になかった。これは元々私は喧嘩早い方であるが、中條さんが温厚な性格であり、常に私を受け止めてくれたからだ。たいへん立派な人であった。

中條さんの功績の第一をあげるとすれば、昭和二十年高松空襲からの銀行本店防衛だろう。高松中心部の建物のほとんどが焼失した中で、当行本店（現在の高

からシャツターに放水した。これでシャツターは外からの火力に耐え、内部焼失が免れたのである。

この醤油樽については、中條さんが事前に小豆島の丸金醤油さんから古い醤油樽（二十石入り）を購入してきて、防火槽として設置していたものである。古い醤油樽を使うという、この発案は中條さんであり、一旦バラして搬送してきて銀行の中で組み立てたのである。

夜明け頃になつて初めてシャツターを中から開けてみると、周囲の建物はすべて焼け落ち、東隣にあつた本店の付属木

弾による被災を防ぐため、鉄のシャツツーを閉めて建物の中に籠城することとなつた。これは当時鉄筋の頑丈な建物を信頼していたためで、恐怖感はほとんどなかつた。まもなく焼夷弾が屋上などに落ちてきたが、それはバラバラと、まるで雨が降つてゐるような音がした。丸亀町など周辺も火事になつたとみえ、周囲の火勢で銀行のシャツツーも次第に赤く熱せられてきた。これが内部から見えるのである。このままではシャツツーも焼け落ち、内部へ火災が侵入することは避け難いと思われた。

支障はなかつた。なお、日銀は当行本店の営業室を使ってしばらく営業した。また、私共の自宅も皆焼失したので、自宅再建まで四カ月以上、中條さんと私は近くの民家に合宿しながら、通勤した。当行も本店が焼失していれば、お客様に長い間ご迷惑をお掛けしたはずである。当行だけがすぐに営業を再開できたのは、まさに中條さんの功績であった。

第一席 A · B	午前九時~
第二席 A · B	午前十時四〇分~
第三席 A · B	午前十一時三〇分~
第四席 A · B	午後一時一〇分~

席主 武者小路千家 官休庵
内容 濃茶席・薄茶席・点心席
定員 八席各十五名様
席料 八千円
茶券ご案内

朝茶事

	朝茶事	
とき	八月七日（土）午前七時	
席主	裏千家	和茶日会
定員	一席十二名	
席料	一万三千円	
		定員 一席十二名 二万五千円

すべて予約制（時間指定）となります

当財団事務局まで
☎(087)826-3251

イベントガイド

丸亀市文化協会 ☎ (0877)24-8826	観音寺市民会館 ☎ (0875)23-3939	牟礼町石の民俗資料館 ☎ (087)845-8484
8/13・14 市民盆おどり大会 市民ひろば 18:00~ ■	7/11 第7回フロイデコンサート ●	~6/12 ハイバーネイション (篠田太郎個展) ●
丸亀市教育委員会文化課 ☎ (0877)24-8826	7/17 第11回健康教育講演会 ■	現代アートの立体作品 9:00~
6/12 日本詩人クラブ丸亀大会 (全国大会) 丸亀市総合会館 ●	7/20 第34回銭形まつり踊りコンテスト ■	6/12 音楽工房グループセッション Vol.7 ●
6/13~郷土の詩人たち～丸亀市を中心～ 丸亀市資料館	7/24 映画会「'99ポケモン」 ●	小泉清人ジャズ&ボサノバロライブ 19:00~
丸亀市立資料館 ☎ (0877)22-5366	7/25 劇団飛行船公演 ●	6/19~7/1 書と染作品展 (文化協会展①) ■
~6/27 「名刀展」一刀匠の技と美— 第一展示室 9:30~ ●	7/31・8/1 香川県ジュニア音楽コンクール 西ブロック	書道・染色の展示 9:00~
6/25 歴史講演会「丸亀の城下町について」■ 講師:愛媛大学教授 内田九州男 総合会館3Fホール 14:00~	8/7 映画会「学校の怪談4」 ●	7/3~14 文化協会展② 油絵・パッチワーク の作品展 9:00~ ■
7/24~8/22 「よそおう」(仮称) 近世・近代の女性の装飾品(櫛・簪)等を展示 第一展示室 9:30~	8/8 第4回かんしんマンガ映画大会 ■	7/18~8/8 クリンカムーフランカム展 ●
丸亀市民会館 ☎ (0877)23-4141	8/11 観ーサマーコンサート ●	アメリカのリサイクルおもちゃの展示 (期間中おもちゃの病院あり) 9:00~
6/19 鬼平犯科帳 13:00~ 17:00~●	8/14 みとよプロジェクト ■	8/13~29 化石展 (期間中化石クリーニング教室あり) 9:00~ ■
6/20 松山千春コンサート 18:30~●	8/28 親子まんが映画会 ■	
6/27 クロード・チャリコンサート 18:30~●	8/29 泉の会コンサート 中ホール ■	
7/4 NHKのど自慢	志度音楽ホール ☎ (087)894-1000	
7/10 くらしき作陽大学吹奏楽部演奏会	6/13 大谷康子ヴァイオリン・リサイタル 14:00~●	
7/12~14 高校生鑑賞教室「JDO一路」 10:30~・14:00~●	6/20 親と子の市民映画祭 10:00~	~6/2 廣瀬富美書展ならびに香川地区文人代表展 9:00~ ■
7/16 第48回市民夏季大学講座 18:30~●	7/25 映画上映会「アンパンマン」 ●	6/8~20 第5回ホタルの里しおのえフォトコンテスト展 9:00~ ■
7/17 第48回市民夏季大学講座 13:00~●	ふるさとリサイタルシリーズXV ●	6/22~7/18 ろうけつ染作家 中條芳徳展 9:00~ ■
7/24・25 スタインウェイピアノリレーコンサート 9:30~・13:00~■	伊藤君子とSWJOによる ジャズコンサート 14:00~	7/20~8/15 住田絵画展 9:00~ ■
7/30 松竹大歌舞伎 14:00~・18:00~●	多度津町民会館 ☎ (0877)33-3330	8/17~9/12 全国子ども秀作絵画展 9:00~ ■
8/13 坂出高校吹奏楽部第26回定期演奏会 14:00~■	7/4 第9回七夕カラオケコンサート 10:00~■	
8/22 親子まんが映画会	7/10 しゅうさえこ 14:00~●	
8/28 吉本新喜劇エクスタシーツアー	童謡ふれあいコンサート	
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎ (0877)24-7755	8/1 スーパー雑技'99 13:30~・19:00~●	
6/5~7/11 ダリの世界 10:00~●	8/6 たどつ夏まつり前夜祭 19:00~■	
7/20~8/15 猪熊弦一郎展 猫・街・鳥・宇宙 10:00~●	8/8 善通寺第一高校 定期演奏会 13:30~■	
8/21~9/26 パリ市近代美術館展 10:00~●	仁尾町文化協会 ☎ (0875)82-2143	
坂出市民ホール ☎ (0877)45-1505	7/4 仁尾雨乞い竜まつり 前夜祭 ■	
7/3・4 坂出市民大学夏期講座 ●	仁尾町勤労者体育センター 18:00~	
8/6・7 坂出大橋まつり ■	8/7 仁尾雨乞い竜まつり 総踊り大会 仁尾浜地区 17:50~■	
8/27 親子・マンガ映画会 ●	8/12~16 仁尾町文化協会美術部展 ■	
善通寺市民会館 ☎ (0877)62-7001	絵画・書道・写真・陶芸・児童館・絵画 教室作品 仁尾町公民館集会場 9:00~	
6/6 歯の衛生週間行事 講堂ロビー 9:00~■	8/21 納涼盆踊り大会 ■	
6/13 フレッシュ私学のつどい'99 ■	仁尾町讚光亭駐車場 19:30~	
講堂ロビー 9:00~	大内人形劇場 とらまる座 ☎ (0879)25-0400	
6/25 講演会及びパネルディスカッション 講堂ロビー 13:00~■	6/6 とらまる公園ファミリー・ディキャンプ● とらまるキャンプ場 9:00~	
7/4 吟道清風流吟堂吟友香川大会 ■	6/11~13 人形劇・トロッコ ● だるまちゃんとてんぐちゃん 10:30~・13:30~	
講堂 9:00~	7/24・25 人形劇団パン ● おおかみと七匹の子ヤギ 10:30~・13:30~	
7/30 創立5周年記念善通寺少年少女合唱団 講堂 18:00~■	7/31・8/1 人形劇団あば アラジンと魔法のランプ● 10:30~・13:30~	
8/22 親子まんが映画会 13:00~● 16mmアニメ8本立て上映 講堂	8/13~15 わけちゃん ● わけちゃんのお楽しみ劇場 13:30~	
8/29 芸能発表会 講堂 13:00~■	8/28・29 茶問屋ショーゴ 金のオノ、銀のオノ● 10:30~・13:30~	
●は有料、■は無料、★は整理券が必要です。 (記号表示は判明したもののみ)		
上記予定は変更する場合もあります。		

放送大学香川学習センターについて

「放送大学」って耳にされたことがありますよね。ところがその内容については、案外知られていません。そこで今回、岡市先生に「放送大学」の内容について、お伺いしました。社会になつて、それもある程度年を重ねて始めて「あー本当に勉強がしたいなあー」と思われている方、結構多いのではないかでしようか。どうか、ご参考いただければ!。



放送大学香川学習センター
所長 岡市 友利

放送大学といいますと、よくNHKの教養番組と間違えられることがあります。が、国の法律により設置された、れっきとした正規の大学です。一二四単位をC/S放送かCATVやビデオを視聴して、それぞれの試験に合格すれば、通常の四年生大学を卒業したのと同じよう、教養学士の学位が授与されます。看護短大や工業高専などを卒業して編入学した人には、学位授与機構を経て看護学士や工学士などの専門学位を取得する制度も整っています。

放送大学に限らず、教養教育は人の感性や知性を揺さぶつて自己発見を促すもので、人間の生き方が遺伝子によつて先天的に決められるように考えらがちですが、遺伝子で決められた枠組みを越えて自分の生活や精神活動のプログラムを作り上げる能力を育てるのが教育です。

「学ぶとは誠実を胸に刻むこと」という

科履修生、一学期だけ在学する科目履修生の三種類の選び方があり、入学金は履修の仕方で違い、例えば全科履修生では一万八千円で、中途編入でなければ十年間で一千五百円です。授業料は一律に一単位四千五百円です。

わが国の高等教育では、少数の私立大学の通信制学部を除けば、すべて入学試験を受けて大学に通学しなければなりませんでしたが、放送大学ではテレビとラジオで約三百科目の授業が開設されており、家庭などで放送番組を視聴するほか、香川学習センターで随時、ビデオ等による学習もでき、また約四十科目用意されている面接授業で自分で自分の進行にあわせたカリキュラムを編成することもできます。

これまで、小学校から高校まで、いわば直線的に進んで大学に入ることが教育の在り方とされきましたが、働きながらでも学ぶ意義と喜びを見いだせる時に好きな学問を学べることで、はじめて豊かな社会が構築されるのではないでしようか。

放送大学では、すべての都道府県にセンターを設置しており、全国の在学生は約七万名で、すでに約一万三千名が卒業しています。その平均年齢は四十歳すぎです。四国の幹事校である香川学習センターでも約六百二十名の生徒が在籍しています。

放送大学は、詩人の詩句を映し出すように、

今、香川学習センターで修学している人たちはそれぞれの仕方で学習に熱心に励んでおります。土曜、日曜日もあいておりますが、月曜日は閉校しておりますので、ご注意ください。



放送大学 香川学習センター入学者の集い

なお、入学手続き等の詳しいことは、放送大学香川学習センター

電話(087) 837-9877

までお問い合わせください。

編集後記

最近思うんですよ。「心豊かであること」「命が大切であること」などは、いつのまにか身につけていることではなく、しつかり意識して、手渡しながら伝えていかなければならぬ時代なのかもしれないな……と。新聞、テレビ等のニュースにあまりにも目を覆いたくなる事件が多いせいでしょうか?

人と人が一緒に結び合つ人生、命を温めあえる関係、支えあい、癒し合う人間関係。そんなことをいっぱい体験したいですね。ある本で読みました。『自立』とは、一人で生きてゆく力を身につけながら、人は一人で生きていくことを中心とした感覚のこと』——だと。そんなことを思いながら、テレビのスイッチを入れると「ミッキーVSサッチャー事件」何ともカワユク映ります。(当事者の皆さんゴメンナサイ)

【声・情報お寄せください】

〒760-0017 高松市番町二丁目一一一二
(財)中條文化振興財団編集部
TEL(087) 826-3335
FAX(087) 826-2212